

# 日本語教育のためのキャリアガイダンス 学内外で好評！

2020  
GOING GLOBAL



外国人に日本語を教える「日本語教師」。そのニーズはグローバル化する社会の中で年々高まり、国家資格の制度化も進む。そのような状況に呼応し、専修大学在学生からも日本語教育能力検定試験の合格者を輩出している。昨年末には「来るべき『公認日本語教師』時代に備えて」と題したキャリアガイダンスを全6回でWEB開催し、その仕事内容、必要とされる技能などを広く学生と父母に周知した。前号の会報『育友』では第1回キャリアガイダンスの内容をお伝えしたが、今号では第2～6回の内容を紹介する。

## 第2回 「日本語教育の推進に関する法律」のポイントと、社会的必要性について

11月25日(水)



柳澤好昭先生（国立国語研究所名誉所員）

国立国語研究所、文化庁などの仕事を経て、現在は日本語教育について政府への提言をする立場の柳澤先生。「日本語教育」はグローバル化社会のキーワードでもあり、中高の教員においても、地方自治体の外国人受け入れ関係部署においても、そのスキルが求められると、就活生にも役立つ情報が提供された。

## 第3回 私立大学における日本語教育と人材

12月2日(水)

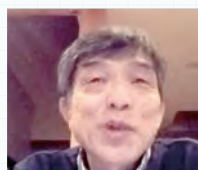


阿部美恵子専修大学兼任講師（元関西学院大学日本語教育センター日本語コーディネーター）

大学の日本語教育センターで留学生教育に従事した阿部先生。英語圏からの留学生への日本語教育では文化理解教育も工夫したという。大学教員のキャリアには、学位と論文が必要とも話す。難しいけれどもやりがいのある日本語教育の現場と、夢はかなう！というメッセージを語った。

## 第4回 国立大学における日本語教育と人材

12月9日(水)



平川八尋専修大学兼任講師（元東京工業大学日本語学部・大学院・日本語教育担当）

国立大で外国人留学生への日本語教育に長年携わった平川先生は、国立大で日本語教育現場に立つにはどのような道があるかということを中心に話を進めた。大学院での学位取得や論文の発表が必要であること、海外留学や研究のこと、そして日本人としての立場についても説明した。

## 第5回 JICAの日本語教師派遣（JICA 海外協力隊）と国際交流基金の日本語教師派遣

12月16日(水)



坪山由美子専修大学兼任講師（JICA 海外協力隊技術顧問、元国際交流基金日本語国際センター専任講師）

JICA、国際交流基金で国内外の日本語教育、日本語教師研修に従事してきた坪山先生。海外への日本語教師派遣のみならず、一般社会人や学校教職員も JICA から海外に派遣され、日本語・日本文化を紹介すると同時に、その経験を日本に持ち帰ることが期待されていると語った。（本学でも日本語教師養成を担当している。）

## 青年海外協力隊への参加と経験



久和野崇司氏（元 JICA 青年海外協力隊 日本語教育隊員）

会社員を経て日本語教師になり、その後、JICA の派遣で、タイの中学校、高校で日本語を教えてきた久和野さんは、海外派遣に選ばれるための準備などについて語った。現在は専修大学大学院の修士課程に在学し、4月からは国際交流基金でベトナムのハノイに派遣されるという。

## 第6回 日本語教育能力検定試験の現状と資格化について

12月23日(水)

川端一博氏（公益財団法人日本国際教育支援協会日本語試験センター試験開発グループリーダー・作題主幹）



日本語教育を専攻した後、海外で日本語を教え、帰国後、検定試験とその評価に携わってきた川端先生。教員養成に設定された時間数の根拠や、国策としての日本語教育の審議過程、「公認日本語教師」に向けた日本語教育推進施策の方向を示す資料について詳細な説明があった。

※日本語教育能力検定試験に合格した在学生の寄稿を44頁に掲載しています。